【ボランティアガイド団体への支援と後継者について】

Ｆ：　私たち「なはり浦の会」は、平成１１年から奈半利町に残る古い建物や塀などを国の登録有形文化財として登録しまして、それらを活用して地域が元気になることを目指している民間のボランティア団体です。

活動内容は街並みのボランティアガイドや地域の子どもたちの地域学習への協力、子どもたちの街並み絵画展、そして登録有形文化財の建物を利用してコンサートや、落語会、書道などの作品展を開催しています。

また、私たちと同じ思いで活動している安芸市から室戸市吉良川町までの６地区の街並み保存グループが連携して「土佐の町家雛まつり」を開催しています。今年で６回目となりましたが、毎年大勢のお客さんに楽しんでいただいていますし、雛まつり限定手作り商品も大変好評でよく売れています。

地域活動をする上で一番困っていることは、後継者の問題です。活動していても毎年メンバーに変化がなく、高齢化が大変進んでいます。現在の会員はそれぞれに特技があって、幅広く活動ができていますが、新たに活動に参加する若い人たちがいない現状です。この地域で若い人が定職について住むことができるための支援策が何かないかと一番問題に思っています。

また、ボランティア団体の活動を県として支援していただきたいです。地域として取り組んでいますが、財源獲得や特に広域活動、広報活動に課題が残っています。

私たちの会がある程度成功していると思えるのは、広域的な感覚をもった会員が何人かいるからですが、そうした会員を育てる術を団体として持っていないのです。高知県全体をひとくくりに事業をしても、各地域ごとに課題があるだろうし、無理があると思いますので、各地域ごとに課題に沿った人材養成を是非お願いしたいです。

知事：　「土佐の町家雛まつり」は評判いいですよね。県外からもたくさんお客さん来られるそうで、本当に素晴らしいことだと思います。そういう季節ごとの行事を増やしていきたいというような話を多くの方がされますけど、そのリーダー的な存在であると思いますし、是非今後も頑張っていただきたいと思います。今、お話の中で後継者が少ないというお話、それとボランティア団体の財源獲得、広報活動のお話があったかと思います。

後継者が少ない、若い人が残れるまちづくりをするということ自体、県内全体の課題だし、もっと言えば、日本全体でも東京などの大都会以外は同じ課題を抱えていると思います。逆に言うと、これができれば、ある意味、地域活性化は成功という、最終目標みたいなところもあるんだろうと思います。ただ、今日の座談会の参加者の方のように、若い方もだんだん地元に残られるようになってきた。その理由の一つとして、自分の夢を叶えられるかもしれないと思うようなチャレンジングな仕事が地域にあるということだと思います。そういう夢を地域アクションプランを通じて、形にする、お金にする。地域アクションプランというのはそういうものだと私は思っています。

地域アクションプランを始めた頃は、元々取り組んでいた事業が多かったんですけど、だんだん新しいものが加わってきています。もう、地域アクションプランから卒業される方も出てくると思うので、新たに地域アクションプランを始めていただいて、今後も続けていきたいと思います。

その上で、観光ボランティア関係のお話です。観光ボランティアガイドの皆さん方とタイアップさせていただくということは今後の本県の観光にとって大きいと思っています。

先ほどのジオパークのところでも申し上げましたが、高知県の観光資源をわかりやすくお客さんに示して、どういう時でも、ある一定以上の品質を示せるようにしておくことがものすごく重要だと思います。もっと言えば、高知県の場合、いわゆる施設型観光ではないので、何気ない岩がとてつもない価値を持っているのを、ガイドさんにガイドしてもらって初めてわかるということがあると思います。そういう意味では、ガイドさんの役目は他の県に比べても大きいわけですよね。

そういうことで、今年度から支援策を特に強化したところです。高知県観光ガイド連絡協議会を設立し、ガイド研修の事業を委託しています。県内全域対象の研修と地域別での研修、さらには会員が個別に勉強会等をされるのを支援する仕組みと、この３段階で取り組みを進めているところです。

さらには、観光アドバイザーに来ていただいて、観光ガイドの皆様方の地域の特性に応じた取り組みをバックアップする施策を強化しているところです。観光ガイド連絡協議会に加入される予定と伺っていますので、是非またご活用いただいて、もっとこれはこうしたほうがいいんじゃないかというご意見をいただければと思います。

もう１つ、広報活動の課題ですが、やっぱり観光ガイドをやっていることを観光商品として全国に売っていかないといけないと思います。県の「志国高知　龍馬ふるさと博」のＰＲ用パンフレットに入れるという方法もあるんですが、合わせて地域で観光資源を商品化できるようになっていくことが最終的な目標だと思っています。

広域の観光圏協議会は幡多地域や仁淀川地域などあちこちで設立されています。その広域の観光圏協議会に、いわゆる観光業の免許を取っていただいて、自分たちで着地型商品を作って売り込みをやるというような組織化を是非してほしいです。

中芸は確か、観光コンシェルジュの方に１名入っていただいて、全体を統括してＰＲする仕事を始めていただいていると思いますけれど、さらにそれが連絡協議会のような形になって、中芸、室戸、東洋町全体の商品化を共同でやって売っていくと、そういうふうにできればと思います。

一か所だけだとそれを目指して東京から来るのは、なかなか大変だと思いますが、いくつも見どころがあると、高知県東部に旅行してみようか、となると思うんです。

Ｆ：　そう、それを目指しております。安芸の土居廓中や、中芸地区では森林鉄道や街並み、室戸にも古い街並みがありますし、ジオパーク、などいろいろな見どころがあるので、

この東部全体を売り出してもらいたいなと思います。

知事：　「土佐東方見聞録」というパンフレットがあるのご存知でしょう。あれを作った辺りから、東部地域を一帯として捉えていこうという話になってきつつあります。まさにその機運が盛り上がり、昨年の龍馬伝で安芸は大観光地になりましたね。岩崎弥太郎の生家は昨年まで数千人、数万人だったお客さんが一挙に２０万人ぐらいに増えたそうです。中岡慎太郎もだいぶ有名になって、中岡慎太郎の生家にも人が来るようになった。それに合わせて、北川村のモネの庭も有名にしていこうではないか。組み合わせれば、どこかが天候でダメでも何かでバックアップできるという全体の仕組みを作って売り込めると思うので、広域の組織というのが是非とも必要だと思います。

「土佐・龍馬であい博」、「志国高知 龍馬ふるさと博」とやっている間に、そういう組織ができて、あとはイベントに頼らなくても、地域地域でどんどん観光商品を作って、大手旅行会社に売り込んでいけるようにするのが最終目標です。